

崎山比早子氏仙台講演会 実施報告

6月17日（土）、せんだいメディアテークで医学博士である崎山比早子氏講演会「低線量被ばくによる健康被害」を実施しました。180名を収容限界とする会場に、立ち見がびっしり出るほどの方がおいでくださいました。ご来場ありがとうございました。（きらきら発電とあいコープみやぎとの共催）

講演の冒頭、福島県内で流されているという、福島安全宣言CM「心の除染」編をご紹介されました。CMによると、『福島でもっとも危険なのは迷信による「心の汚染」です。いま、必要なのは「心の除染」。』という内容です。著名な科学者が籍を置く「放射線の正しい知識を普及する会」によると、福島は安全だとし、放射線による健康被害もありません、と謳っています。さらには、「心の除染」を行うためには放射線に関する「正しい」知識を教育する必要があるとしています。

講演の後半には、原発事故前、「国民が僅かな放射線を恐れて、原子力の需要が進まず、エネルギー問題の観点から日本の前途が危くなるおそれがある。」として、放射線の危険性を過小評価した認識に立った放射線教育や、電気事業連合会（電事連）などにより、規制当局構成員・放射線専門家への被ばくに関する規制緩和の働きかけが長年にわたり続けられてきたことをご報告されました。

現在、放射線による低線量被ばく影響の考え方について意見が分かれている状況がありますが、「国際的な合意を外れて低線量被ばくのリスクを大きく見做すことは受け入れられない」とし、「福島の復興を阻害する」とした17名もの著名な国内科学者や研究者による意見書が、ある裁判の中で崎山氏に対し送りつけられたことをご紹介されました。

ICRPですら、しきい値なし直線（LNT）モデルが採用されていますが、崎山氏は放射線被ばく量がゼロではない限りリスクはゼロではない・1mSvという年間被ばく限度も“安全”基準ではない、ということが国際的に確認されているとし、低線量被ばくによる健康影響が示されているデータも複数ご紹介されました。そして、震災後に行われている福島県「県民健康調査」で甲状腺がん（疑い含む）の子どもたちが191人確認されていることや、自らが代表理事を務める民間基金「3・11甲状腺がん子ども基金」に支援申請された甲状腺がんの子どもたちやご家族が置かれた厳しい状況などをお話しされました。

福島県外の宮城県や周辺県では、放射能に関する公的な健康調査がほぼ行われていませんが、「3・11甲状腺がん子ども基金」によると、福島県外でも東日本の広域にわたり、甲状腺がんの子どもたちが複数確認され、中には重症化した方や、病巣の摘出手術後に再発したケースも報告されています。

チェルノブイリでも当初は認められませんでした。後年、周辺地域における甲状腺がん多発が事故原因であることが世界的に認められるようになりました。「影響ない」と最初から決めつけるのではなく、福島県内で多発している甲状腺がんや珍しい人々が苦しめられた現実を直視し、影響があるのかどうか慎重に、長期的に観察（甲状腺モニタリングなど）していくことが、放射能汚染地での営みを続けている人々や未来世代のために必要であり、それが、私たちの責任ではないでしょうか。

崎山氏のご講演を通して、ひとりひとりのいのちが大切にされることとはほど遠く、経済優先や原子力推進のために行われてきたことが、事故後も「放射能安全」キャンペーンという形で繰り返されている状況を知り、学ぶことができました。日本の知的レベルの現状を悲しみ嘆かれた崎山氏に共感すると同時に、今も終東していない原子力災害を忘却せず、これまで、そして今、生起している現実から目を逸らさず、私たち市民や住民自身が主体的に学び、つながり、自信をもってともに歩いていくことの大切さを強く感じられた素晴らしいご講演でした。

会場いっぱいの参加者とこの時間を共有できました。関係者のご尽力にお礼申し上げます。

講演動画などweb上で公開しています。ぜひご覧ください。<http://tohoku.uccj.jp/izumi/?p=7969>

文責 いずみ事務局長 服部 賢治

「3・11甲状腺がん子ども基金」への会場カンパ116,937円、ありがとうございました。



立ち見が出るほどいっぱい！

・大変わかりやすい講義。17名連名の御用学者に怖い思い。

・4年前石巻の講演を聞かせてもらった。娘が甲状腺嚢胞で、心配。

・閾(しきい)値がない、全くその通りだと思う。

・自分の頭の中で整理できた。医療被ばくにも触れてもらい、なるほどと思った。

・放射性廃棄物の混焼やすきこみ・堆肥化も危険と主張してほしかった。

・わかりやすくて良かった。

・専門的部分は理解不能だったが、大筋勉強になった。確信につながった。

・何事も自分で判断することが大切と感じた。

・6年以上経過し、ますます判断(子どもへの対応)が難しくなっている。

・「一人ひとりには微力でも」に共感。先生から勇気とエネルギーをもらった。

・知らないうちに低線量被ばくで体内が傷つけられていると知った。

・自治体や学校の健診に甲状腺検査が組み込まれるといいなと思います。

・東電の過失責任を問い続けたい。

・教会で被ばく者の声を伝える朗読会を続けている。内部被ばく、勉強になった。

・ICRPの腐敗ぶりに、今更ながら驚いている。

・もっと長い時間の講義にしてもよかった。

・正しい知識に基づき、正しく恐れる。120年先の復興を考えましょう。

・とても良い企画、ありがとうございます。

・今後も仙台で生きていくうえで、真実を知ることの大切さを切に感じます。

参加者のご感想より